



世界選手権での1コマ。日本では見ることができない景色に感激しながらレースを続けた。



人と競うのではない 競う相手は自分自身

児島 哲二さん (室)

50代で始めたトライアスロン。自分を磨き続けて、気が付けば日本代表として世界大会に出場していた。1位を目指してやっていたわけではない。他人に勝つためにやっていたことではない。「それぞれが「一等賞」の思いで積み重ねてきただけのこと。今回は児島哲二さんにクローズアップする。

11月5日、アメリカ・ネバダ州ヘンダーソン市で開催された「2011 ITU ロングディスタンストライアスロン世界選手権」。41人の日本代表の一人として児島さんは出場した。大会は、前日に降りだした雨の影響でコンディションが急変。当日の気温は10℃以下で水温も約14℃と低く、スイム4kmを中止して、バイク120km+ラン30kmで開催された。児島さんの結果は見事完走して20位。堂々たる世界の20位だ。

今年で63歳を迎える児島さん。若い頃は、職場で野球やソフトボールをしてきたが、38歳からマラソンを始め、53歳のときにトライアスロンに挑戦したという。「仕事の関係で時間に余裕ができたので、それならば憧れていたトライアスロンをやってみようと思ったんです」と前向きなきっかけを語る。

児島さんは前向きだ。汗をかくと前向きな気持ちになれると言う。スポーツは、競争するのではなく、自分と闘い続けることだと児島さんは考える。

夢は「世界アイアンマン大会」に出場することだと話す児島さん。スポーツを長く続けていくコツを尋ねると「競争にこだわらないことです」とニコリ笑った。

ついでの声

▼あつという間に終わりを迎えた2011年。今年は何を進めることができ、何を变えることができたのか。今年振り返っても息子の誕生以外は、あまり良いことはない▼イベントが出せない▼イベントが続いた11月、その中でも震災の影響は色濃く残っていた。取材しながら、皆がそれぞれの形で頑張っている姿を見ることができた。やっぱり震災が起きてしまったから今年が良いイメージが残らないのだろう▼後ろ向きな考え方に児島哲二さんの「汗をかくと前向きになれる」という言葉を出した。そつだ、汗をかくと前向きになる▼来年こそは。と思いつつも頭をよぎったのは「智」に働けば角が立つ。情に棹させば流される。草枕の言葉の一節だった。(社口)

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

Proud!
東日本大震災の復興を支援しよう
Japan

広報 おおづ 2011 12

発行・編集 ■大津市・企画課
〒869-1292 熊本栗原池部大津大津1233番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kunamoto.jp/>

2100 印刷 ■ホーテ印刷株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と大豆インクを使っています。

UD FONT
易やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

今月のみどころ
ねりんピック
都市対抗野球

全日本モトクロス選手権

からいもフェスティバルinおおづ
4つのイベントを一度に写真で紹介!

クローズアップ大津人
児島哲二さん

12
DECEMBER 2011